Paediatric Pain Profile とは

Background to Paediatric Pain Profile

Paediatric Pain Profile は、言葉で痛みを伝えることができない子どもの痛みの評価と管理を支援するために、英国の研究者 Anne Hunt らによって開発されたツールです。言葉で伝えられない子ども達の痛みは、彼らが発するサインを、観察者が解釈する必要があります。サインには、子どもの動きや姿勢、発声、顔の表情の変化が含まれます。Paediatric Pain Profile は、それぞれの子どもの痛みの最も重要な指標となる行動を捉えることができるように構成されています。
[Paediatric Pain Profile に関する情報：https://ppprofile.org.uk/]

日本では、重症心身障害児など言葉で伝えることができない子どもの日常的な痛みを評価するツールがありませんでした。そこで、私たちは Paediatric Pain Profile の日本語版を作成し、信頼性と妥当性を実証しました。私たちは、このツールを通して子ども達の痛みが理解され、積極的に緩和されることを期待します。
[Paediatric Pain Profile 日本語版の信頼性と妥当性に関する研究：
Okita M., Nio K., Murabata M., Murata H., Iwamoto S. (2020). Reliability and validity of the Japanese version of the Paediatric Pain Profile for children with severe motor and intellectual disabilities. PLoS ONE 15(12):e0243566. DOI:10.1371/journal.pone.0243566]

和訳担当：岩本彰太郎[1)]，大北真弓[2)]，多田羅竜平[3)]，村田博昭[4)]，村端真由美[2)]
1）三重大学医学部附属病院 小児・AYA がんトータルケアセンター
2）三重大学大学院 医学系研究科 看護学専攻実践看護学
3）大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター 緩和医療科
4）国立病院機構 三重病院 小児科　（所属：2021 年 12 月現在）

Paediatric Pain Profile の目標

・子どもの痛み行動反応の説明と記録を容易にします

・子どもの痛みと治療の効果を簡単に管理できるようにします

・子どもの痛みに関する心配ごとを専門家に伝えやすくします

Paediatric Pain Profile 日本語版は、20 項目の行動反応を評価するツールです。痛みの強さを評価するものではなく、ある期間の痛みの頻度を評価するものです。各項目は、「ほとんどない」から「非常にある」までの 4 段階で評価されます。各項目のスコアを合計すると、合計スコアは 0 から 60 の範囲になります。このスコアは、PPP スコアといいます。Hunt らの研究では、PPP スコアが 14 以上となった場合、一般的に、中等度または重度の痛みを伴っていることが明らかにされています。これは、子どもの障害の程度や医療的ケアの有無、痛みの原因によって異なります。子ども達は、痛みに反応する独自の行動範囲を持っています。つまり、それぞれの子どもの痛み行動反応の特性を理解することが大切です。

痛みは常に個人的な経験であり、自らが伝えた痛みを評価することが標準的な評価方法です。しかし、言葉で痛みを伝えることが難しい子どもの場合、誰かが代わりに評価することが重要です。痛みは客観的に観察可能な事象であるため、代理評価でも正確な情報が得られると期待できますが、観察者の見方や意見が混じる可能性は否めません。そこで、私たちは観察者に対して、以下のことを推奨します。

・その子どものことをよく知る人が継続して観察することが望ましいでしょう。
・もし、複数の観察者でその子どもの痛みを共有する場合は、一番その子どものことをよく知る人の評価を基準にして、スコアを共有しましょう。
・観察者はその子ども過去の痛み行動反応を思い出したり、自らの経験を踏まえてスコアをつけたりしてはいけません。観察したままの子どもの行動反応を評価してください。

[痛みの代理評価に与える影響に関する研究：
大北真弓（2021）. 看護師の特性が重症心身障害児の痛みの評価に与える影響ーPaediatric Pain Profile 日本語版を使用してー. 日本重症心身障害学会誌，46(3)，341-348.]

使用説明書とガイダンス

Instructions and guidance for use

痛み の 履歴

Pain history

このページでは、子どもの痛みの履歴についてお尋ねします。手術や怪我による痛み、または病気や障害が原因で発生した痛みについて、子どもの経験を書くためのスペースです。子どもに起こりやすい痛みの原因や、その痛みにどのように対処したかを知ることは、現在の痛みの管理方法を導くのに役立ちます。

ベースラインアセスメント

Baseline assessments

このページでは、1）良い状態であるとき、2）現在または繰り返す痛みがあるときについて、子どもの行動反応をツールで評価して記録します。子どもの痛み行動反応を観察し、ツールの項目ごとに、その程度（頻度）に合った数字を選び、丸を付けます。シートは 3 枚あり、痛みの原因（A・B・C）ごとに記録できます。丸で囲んだ数字を右側の列に転記し、合計点を算出します。

サマリーグラフ

Summary graph

ベースラインのスコアと痛みの種類別スコアを記載することで、どの痛みが子どもにとって大きな苦痛となりやすいのかを理解することができます。また今後、痛み行動反応が認められた時に痛みの原因を予測することができます。

痛みを評価する

Ongoing pain assesments

痛みのプロファイル - 継続的な痛みの評価シートを使用して、いつでも自分に合った評価を行うことができます。たとえば、子どもの行動を記録する必要がある場合や治療に対する子どもの反応を監視している場合などです。（スコアは、要約グラフや評価、介入および結果のページに転記できます。）

評価→介入→結果

Assessments, actions and outcomes

このシートは、子どもの痛みをやわらげるためにとられた行動を説明することができます。多くの場合、介入後にプロファイルを再度使用して、その介入が痛みをやわらげるのに効果的であったかどうかを確認して記録します。

子どもの痛みついてチームで検討する

Professionals helping with pain

いくつかの痛みは非常にやっかいで、やわらげるのが難しい場合があります。やっかいな痛みは、医師または他の医療専門家に相談することをお勧めします。

付録：痛みの評価シート（複数回使用の場合はコピーしてお使いください。）